国際日本学研究科

Graduate School of Global Japanese Studies

「拓く」力を

国際日本学研究科長　宮本 大人

閉塞感、格差、分断といった言葉が、私たちの今の社会のあり方を形容するものとして盛んに用いられるようになったのは、コロナ禍に始まったことではありません。しかし、コロナ禍以降、いっそう強く、こうした言葉が説得力を持つようになっているのではないでしょうか。

2020年に始まったコロナ禍で、私たちを悩ませた問題はたくさんありましたが、一番辛かったのは、日本に入国できない状態に置かれる留学生がたくさんいたことでした。このあいさつ文を執筆している今も、入国できないまま、遠隔での学びと、自分自身の研究のための調査を続けている院生がいます。

2008年に設立された国際日本学部、2012年に設立された国際日本学研究科は、国境を越えて人・モノ・情報が行き交うグローバル化時代において、日本と世界の関係を、常に変化する流動性の中で、動的に捉えようという問題意識の中で生まれました。

そこには、国境というものの「障壁」としての力が弱まっている、という認識があったように思います。しかし、コロナ禍のような世界的な感染症の拡大は、国境というものの「閉ざす」力の強さを再認識させることになったように思います。感染拡大そのものはその「閉ざす」力をもってしても止められなかったにもかかわらず、少なくとも人の移動は厳然と制限されました。これは、多くの留学生を受け入れ、また、国外の大学・研究機関との交流を進めていこうとしている国際日本学研究科にとって、深刻な課題となりました。

国境は、なくなってはいない。コロナ禍以前からすでに世界各地で問題化していたことですが、急激なグローバル化がもたらす、それぞれの国や地域の経済・社会・文化の、混交、融合、変容は、いつもスムーズに友好的に進むわけではなく、様々な衝突や摩擦を招き、それに対する反発をもたらすこともあります。

こうした状況の中で、国際日本学研究科は、その真価を問われていると思います。日本語を研究し、日本語を母語としない人々に教える方法を研究すること。英語を研究し、英語を母語としない人々に教える方法を研究すること。異文化間の壁を乗り越え、多文化共生社会を実現する方法を研究すること。国境を越える経済活動や情報メディアの働きを研究すること。世界に広がる日本のポップカルチャーのあり方を研究すること。人間が形作ってきた様々な文化とその歴史、そしてそれを支える思想について研究すること。これらすべてが、今、私たちを改めて、国境の外に、「開く」力につながっているはずです。

すべての学問は、まだ答えの出ていない問いに、先人の積み重ねてきた知の助けを借りながら、自ら答えを出そうとする営みです。まだ人が踏み入っていない世界を切り拓く力が、求められます。「拓」という漢字は、手と石の組み合わせでできています。目の前に置かれた大きな石のように重い課題を、自らの手で動かしていくイメージを、そこに見出すことができます。視野を開き、新しい世界を「拓く」力。私たちと一緒に、そうした力を身に着けたいと願う皆さんを、お待ちしています。

国際日本学研究科の人材養成 その他教育研究上の目的

国際日本学研究科では、国際的視点を持ち世界における日本を深く認識し、その認識に基づき的確に行動できる人間を育成することが重要であるという考えに立脚し、日本の文化及び社会システムを国際的な視点に立ち理解し、異文化及び多様な社会システムを理解するとともに、自らの意思を的確に表現することができる人材の育成を目指します。また、留学生の受入れ、送出しを含めて海外の教育研究機関との交流を活発に行い、本研究科が国際日本学の国際的拠点となるよう研究活動の展開を図っていきます。

国際日本学専攻の人材養成 その他教育研究上の目的

国際日本学専攻では、ポップカルチャー研究、企業・メディア・コンテンツ研究、多文化共生・異文化間教育研究、日本語学・日本語教育学研究、英語教育学研究、文化・思想研究といった幅広い研究領域をカバーします。博士前期課程では、そうした幅広い視野と高度な専門的知識を有する人材を養成し、研究者に限らず国際的に活躍しうる社会人の養成も目指します。博士後期課程では、それぞれの研究分野の更なる深化を図り、国際日本学の発展に寄与しうる柔軟で堅固な基礎を持つ研究者を養成します。

入学者受入方針　Admission Policy

【博士前期課程】

国際日本学研究科博士前期課程の目的は、日本の文化及び社会システムを国際的な視点に立ってよく理解するとともに、異文化や多様な社会システムに対する理解力をもち、さらに自らの意思を的確に表現できる、国際社会で広く活躍できる主体性を備えた実務者・教育者・研究者等を養成することです。そこで、次のような学生を積極的に受け入れます。

(1) 国際日本学分野における研究を遂行するのに必要な知識と能力を身に付けることができ、かつそのための努力を惜しまない者。
(2) 自分自身の問題意識との関係において、従来の学問体系を踏まえて、さらに学際性をもつ研究を行うことを目指す者。
(3) すでに言語教育に携わっている者、また、公的機関、NPO、NGO、民間企業等の各種団体に属する者をはじめとする社会人で、自己の職業上の体験から、問題の本質を見極めたい、あるいは少しでも実際に役立てることのできる問題解決法を探りたいと希望しており、本研究科を修了した後には、その成果を自己の職業に生かすことを目指す者。
(4) 自国の文化や社会システムと比較しつつ日本の文化や社会システムについて研究することを目指す留学生。

以上の求める学生像に基づき、学内選考入学試験、一般入学試験、外国人留学生入学試験、社会人特別入学試験を実施し、これらの資質や意欲を個別または総合的に判断するための入学者選抜を行います。
なお、事前に修得しておくべき知識等の内容・水準は、以下のとおり求めます。

(1) 国際日本学に関連した研究推進に不可欠な知識と能力。
(2) 既存の学問分野のみならず新たな研究分野を構築しようとする強い意欲をもつこと。
(3) 日本文化を理解し、さまざまな言語や表現手法を用いて世界に発信・紹介できる能力。

【博士後期課程】

国際日本学研究科博士後期課程においては、日本の文化及び社会システムを国際的な視点に立ってよく理解するとともに、異文化や多様な社会システムに対する理解をもち、さらに自らの意思を的確に表現することができる、国際社会で広く活躍できる主体性を備えた人材、とりわけ国際日本学の発展に寄与しうる柔軟で堅固な基礎を持つ研究者を養成することを目的としています。この目的に沿う次のような学生を積極的に受け入れます。

(1) 国際的視野で物事を考えることができる資質や能力を備えた者。
(2) 自分自身の問題意識との関係において、従来の学問体系を踏まえて、さらに学際性をもつ研究を専門的に行うことを目指す者。
(3) 本研究科の研究分野に関連する学問分野、または学際的分野において、研究者として自立することができる優れた博士論文を完成させるのに足る十分な知的能力と計画性を有する者。

以上の求める学生像に基づき、留学生、社会人を区別せず、博士論文作成に必要な能力、資質及び計画性を保持しているかを判断するために、入学者選抜を行います。
なお、事前に修得しておくべき知識等の内容・水準は、以下のとおり求めます。

(1) さまざまな言語や表現手法を用いて、研究内容を議論し、発表できる能力。
(2) 自らの追究する研究テーマについて国際日本学との関連性を明確に位置づけ、客観的に理解できる能力。
(3) 留学生においては、出身国と日本との交流を促進させる強い意欲があること。

国際日本学研究科Webページ
明治大学大学院 国際日本学研究科　検索

事務取扱時間（低層棟3F）
平　日▶09:00～11:30／12:30～17:30　土曜日▶09:00～12:30　電話▶03-5343-8039　Mail▶ggjs@mics.meiji.ac.jp
※休業期間やイベント等により事務取扱時間は変更となる場合があります。

カリキュラムの特色

■博士前期課程

博士前期課程のカリキュラムは、主要科目と特修科目の2つの科目区分から構成されます。主要科目は、大学院生が選択した領域の指導教員から2年間にわたり個別指導を受け、自身の知的関心や問題を深める研究演習科目として位置付けています。特修科目は、それぞれの領域を学ぶ上で必要な課題を取り扱う講義科目として位置付けており、必修科目として「国際日本学総合研究」を設置しています。

この「国際日本学総合研究」では、国際日本学研究そのものの理解と本研究科の基本コンセプトに関する共通認識の形成を目的としています。

■博士後期課程

博士後期課程のカリキュラムは、必修科目と選択必修科目の２つの科目区分から構成されます。必修科目は、大学院生が選択した指導教員から３年間にわたり個別指導を受け、自身の知的関心や問題を深める研究演習科目として位置付けています。選択必修科目は、それぞれの研究テーマを学ぶ上で必要な課題を取り扱う講義科目として位置付けられています。カリキュラム編成に関しては、２つの科目区分からの履修によって、大学院生が選択した研究分野だけではなく関連する他研究分野についても有機的に学習出来るように配慮します。

■ 博士前期課程

主要科目
ポップカルチャー演習Ⅰ
ポップカルチャー演習Ⅱ
ポップカルチャー演習Ⅲ
ポップカルチャー演習Ⅳ
コンテンツ・メディア演習Ⅰ
コンテンツ・メディア演習Ⅱ
日本社会システム演習Ⅰ
日本社会システム演習Ⅱ
日本社会システム演習Ⅲ
国際関係・地域演習Ⅰ
多文化共生・異文化間教育演習Ⅰ
多文化共生・異文化間教育演習Ⅱ
多文化共生・異文化間教育演習Ⅲ
多文化共生・異文化間教育演習Ⅳ
日本語学演習Ⅰ
日本語教育学演習Ⅰ
日本語教育学演習Ⅱ
英語教育学演習Ⅰ
英語教育学演習Ⅱ
英語教育学演習Ⅲ
英語教育学演習Ⅳ
視覚文化演習Ⅰ
文化関係・文化変容演習Ⅰ
文化関係・文化変容演習Ⅱ
文化関係・文化変容演習Ⅲ
日本思想演習Ⅰ
日本思想演習Ⅱ

特修科目（選択）
ポップカルチャー研究Ａ～Ｉ
コンテンツ・メディア研究（国際メディア）
コンテンツ・メディア研究（コンテンツ産業）
コンテンツ・メディア研究（国際知財）
コンテンツ・メディア研究（コンテンツクリエイト）
コンテンツ・メディア研究（広告）
日本社会システム研究Ａ～Ｄ
国際関係・地域研究（アフリカ）
多文化共生・異文化間教育研究（異文化間教育学特論）
多文化共生・異文化間教育研究（多文化共生特論）
多文化共生・異文化間教育研究（多文化共生と地域社会）
多文化共生・異文化間教育研究（留学生政策）
多文化共生・異文化間教育研究（ソーシャル・ビジネスと多文化共生）
多文化共生・異文化間教育研究（ダイバーシティと日本社会）
多文化共生・異文化間教育研究（企業とダイバーシティ）
多文化共生・異文化間教育研究（文化間移動と教育）
多文化共生・異文化間教育研究（発達心理学）
日本語学研究Ａ～Ｄ
日本語教育学研究Ａ～Ｅ
英語教育学研究（学習指導要領と指導法）
英語教育学研究（マティリアル・デベロップメント）
英語教育学研究（英語教授法）
英語教育学研究（カリキュラムデザイン）
英語教育学研究（スピーチコミュニケーション）

特修科目（必修）
国際日本学総合研究

英語教育学研究（レトリック）
英語教育学研究（心理言語学）
英語教育学研究（インストラクショナル・コミュニケーション）
視覚文化研究（美学・美術史）
視覚文化研究（演劇）
文化関係・文化変容研究（比較社会）
文化関係・文化変容研究（比較文化）
文化関係・文化変容研究（比較文学）
文化関係・文化変容研究（日本文化史）
文化関係・文化変容研究（日本近代文学）
文化関係・文化変容研究（フランス語圏Ａ～Ｂ）
文化関係・文化変容研究（映画）
文化関係・文化変容研究（近代化と開発）
文化関係・文化変容研究（記号と環境Ａ～Ｂ）
日本思想研究Ａ～Ｆ
応用言語学研究（第2言語習得理論Ａ～Ｂ）
応用言語学研究（社会言語学）
応用言語学研究（語用論）
応用言語学研究（Discourse Analysis）
応用言語学研究（コーパス言語学）
リサーチメソッド研究（量的研究方法）
リサーチメソッド研究（質的研究方法）
アクションリサーチ

■ 博士後期課程

必修科目	
研究論文指導（ポップカルチャー）	研究論文指導（言語・国際交流）
研究論文指導（社会・情報・国際関係）	研究論文指導（文化・思想）

選択必修科目	
ポップカルチャー特別研究	言語・国際交流特別研究
社会・情報・国際関係特別研究	文化・思想特別研究

※2023年4月1日時点のものです。今後変更や見直しを行う場合があります。

教育課程編成・実施方針　Curriculum Policy

【博士前期課程】

国際日本学研究科博士前期課程の教育理念・目標である、「日本の文化及び社会システムを国際的な視点に立ってよく理解するとともに、異文化や多様な社会システムに対する理解力をもち、さらに自らの意思を的確に表現できる、国際社会で広く活躍できる主体性を備えた実務者・教育者・研究者等の養成」を実現するために、以下に示す方針に基づきカリキュラムを編成します。

⑴ 人文科学と社会科学を相互浸透的に認識し、その認識に基づき的確に行動し得る能力を構築するために、本研究科の研究領域として、ポップカルチャー研究、企業・メディア・コンテンツ研究、多文化共生・異文化間教育研究、日本語学・日本語教育学研究、英語教育学研究、文化・思想研究の6つの研究領域を設置します。これら6つの研究領域の研究を概観し、それぞれの研究方法を理解するために、研究領域横断的に展開する必修科目等を設置し、自身の研究領域とは異なる領域への理解を深め、視野を広げ、自身の研究領域を相対化します。また、大学院生が主体となった研究発表会や修士学位論文の「中間報告会」を複数回実施し、様々な研究領域に属する教員や大学院生から助言を受け、ともに議論する機会を設けます。

⑵ 日本研究と国際研究を複合的に捉え、国際的な視野で物事を考え、表現することができる資質や能力を習得するため、海外の大学等と協定を締結し、訪問・招聘事業を行うと共に、交換留学生を積極的に受入れます。

⑶ 現実社会や様々な学術分野で生じている新たな課題を発見し、その課題解決方法を探る資質や能力を習得するため、学外機関や各界の実務者・教育者・研究者を招いて行う講義に加え、多様なフィールドワーク等により、理論と実践を組み合わせた研究を行います。

⑷ これらの方針を踏まえ、学生が主体性を持って課題を広く深く考察し、それについて独自な知見を提示することが可能となるように、修士学位論文作成に向けて個別的指導を行います。

【博士後期課程】

国際日本学研究科博士後期課程では、国際日本学の発展に寄与しうる柔軟で堅固な基礎を持つ研究者を養成するため、自らの関心にしたがって学際的・国際的に学ぶことができる環境を整えています。博士後期課程で学ぶ研究テーマは、より具体的で高度なものとなり、それに伴って、より広い視野と深い知識が必要となります。カリキュラム編成に関わる教育・研究の特色は以下のとおりです。

⑴ 人文科学と社会科学の諸分野を相互に関係付け、学際的に研究を展開できる資質や能力を向上させるために、本研究科の研究分野として、ポップカルチャー、社会・情報・国際関係、言語・国際交流、文化・思想の4つの研究分野を設置します。研究分野の区分なく相互に学び、学術交流を図るために、大学院生が主体となった研究発表会を実施し、自らの研究を高めることを目指します。また、博士学位論文の作成過程では、「中間報告会」を複数回実施し、様々な研究分野の教員や大学院生からの助言を受け、ともに議論を深める機会を設けます。さらに、学会発表や学術論文等の執筆の指導を通して、学術界での活動を支援します。

⑵ 国際的な視野を養い、世界に通用する学術的に高い水準の研究成果を発信することができる能力を習得するため、海外の大学等と協定を締結し、訪問・招聘事業、国際シンポジウム等の国際的学術交流の機会を設けると共に、博士学位を有する研究員を積極的に受入れ、大学院生との共同研究発表会を展開していきます。

⑶ 日本社会、国際社会や様々な学術分野で生じている新たな課題の深層を探究し、その課題解決に貢献する資質や能力を習得するため、国内外の研究教育機関との連携や、各界の専門家との協働等を通じ、研究成果を社会へ還元できるよう、理論と実践を組み合わせた研究を行います。

⑷ これらの方針を踏まえ、博士学位論文作成に向けて、研究に必要な知見を体系的に身に付け、独創的な研究成果を提示し、各研究分野の発展に寄与するように、研究指導グループの下、個別的指導を行います。

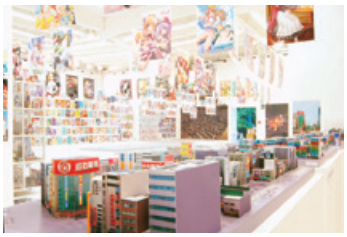
国際日本学研究科

博士前期課程　6つの研究領域

博士前期課程では、日本の文化および社会システムを国際的な視野を持ってよく理解するとともに、異文化や多様な社会システムに対する理解を持ち、更に自らの意思を言葉で明確に表現することができる、国際社会で広く活躍する力のある実務者・教育者・研究者を養成することを目指しています。

01 ポップカルチャー研究領域
日本の先端文化、マンガ・アニメ・ゲーム

マンガ・アニメ・ゲーム・特撮に代表される日本のポップカルチャーの一翼の、文化・産業両面の歴史的な発展過程や現状、それらの国内外での受容や、ジェンダーとの関わり、さらには同人誌即売会や「おたく文化」の秋葉原への集中に見受けられるような、特定のスタイルやテイストの発生と、それに基づくコミュニティや場の形成などに目を向けます。また、サブカルチャーとみなされてきたものに大きくまたがるそれら文化のアーカイブ構築や、保存・運用に関する実践的研究を行います。



「おたく：人格＝空間＝都市」展
（ヴェネチア・ビエンナーレ第9回国際建築展日本館）

02 日本社会・産業システム研究領域 ※2024年4月より「企業・メディア・コンテンツ」研究領域から名称変更予定
日本の社会・産業システムの特質・問題点を探究!

出典：Society 5.0 - 内閣府より

近年、ICT（情報通信技術）やAI（人工知能）を筆頭とするデジタルテクノロジーの革新と進歩によって、人々の暮らしは大きく変わっています。そしてまた、企業活動はますます高度化・複雑化し、社会の仕組みも多様化の様相を呈しています。この研究領域では、日本における消費行動や企業活動、産業構造、そしてその総体としての社会システムのダイナミズム、すなわちその変化や動態を研究します。より具体的には組織の在り方と企業文化、日本的経営やものづくり、日本的流通システム、広告、情報産業およびクリエイティブ産業などを対象として、実践的・理論的な諸問題を考察します。

03 多文化共生・異文化間教育研究領域
ダイバーシティが社会を変える！

この領域では、多様な人々が共に生きる社会づくりについて研究します。

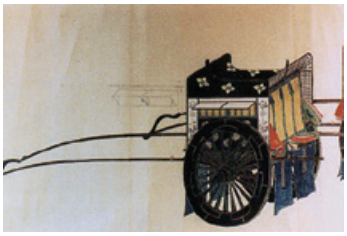
グローバル化の進展の中で、外国からの労働者や留学生そして移民など多様な文化背景を有する人々が増加しています。また、地域社会や学校、大学あるいは企業における多様性（個性、ジェンダー、障がい等）もより重視されるようになりました。

本領域では、そうした変化がもたらす課題を研究します。外国人に関わる課題、ダイバーシティ（ジェンダー、障がい、世代など）、地域における多様な主体の協働のあり方、多様性から知を生み出す教育および学習環境デザイン/テクノロジー活用、異文化体験が人間の成長・発達にどのように影響するか、多文化共生を目指す教育の実践とは何かなどが、研究の問いになります。

04 日本語学・日本語教育学研究領域
「日本語」を携え、世界へ

日本語を研究対象とする「日本語学」の分野では、日本語を歴史的に捉える通時的研究と、現代語など時代を限定してその時代の日本語を捉える共時的研究が可能です。どちらの場合でも、日本語の姿を文字、語彙、文法、文章、運用、認識の仕方などの側面から解明します。

日本語を外国語として教えるための研究をする「日本語教育学」の分野では、日本語に関する言語学的な知見と他の言語との対照に基づいて、学習者にとって日本語のどのような側面が習得しにくいのかを解明し、どのようにすれば学習者が自然な日本語を効率的に習得できるようになるのかを追究します。



写真出典：山口仲美『平安朝“元気印”列伝』掲載の口絵写真より
雅やかな昔の日本の乗り物「牛車」。これに乗ると、慣れない人は「車酔い」をした。はてさて、「牛車」「車酔い」の言葉はいつから使われたのか？ 物や認識の仕方に関わる「言葉」を追究することは、日本文化を究めることに連なります。

05 英語教育学研究領域
英語教育は科学だ！理論を学び、実践に活かそう

母語は無意識で習得できるのに、なぜ第２言語を習得するのは難しいのでしょうか。どうすれば効果的な英語教育を行うことができるのでしょうか。その答えを得るためには、応用言語学、社会言語学、心理言語学、認知言語学などの言語学の分野はもとより、言語政策やメディア研究、脳科学などさまざまなアプローチが可能です。その意味で、英語教育は学際的な分野です。最新の理論や知見、研究方法を学び、教育現場で実践できる力をつけましょう。

写真：「グループワークをするフィンランドの小学生」最近接発達領域論とは、「子どもは、大人やより能力がある人のscaffoldingを得て、一人では解決出来なかった問題が解決できる状態となる」という考え方である。つまり人は、他者調整（他の人の助けや協力）を得て、やがて自己調整（自律）の道筋をたどるのである。それを具現化しているのがフィンランドの教育である。

06 文化・思想研究領域
文化研究の面白さを知ろう

広い視野の中に自分の関心を位置づけて研究を行うところにこの領域の特徴があります。時代の区分、言語や宗教の違いを超え、文字文化のみならず視覚文化や身体文化にも注目しつつ、自分にとって本当に面白いもの、大切なものを探していくのは、骨の折れることではありますが、楽しいことです。日本文化のほか、東アジア（とくに中国）・中東・ヨーロッパ（とくにドイツ・フランス・英国）・アフリカの文化に詳しい教員により、宗教思想・政治思想・哲学・文学・絵画・彫刻・映画・演劇・武道・茶道、また庶民の文化などを対象とした多岐にわたる研究が行われています。

写真：熊野観心十界曼荼羅
かつて熊野比丘尼が絵解きした日本人の伝統的死生観を表象する絵画。
インド起源・中国起源・日本独自のさまざまな図像からなる日本仏教的絵画。

博士後期課程　教育課程編成の基本方針

博士後期課程では、博士前期課程における教育研究を基盤としつつ、より広く深い研究を行うことを目指すべく、独自のカリキュラム編成を採ります。このため、博士前期課程における研究領域の区分をなくし、学生が自らの関心に従って自由に領域を超えて学ぶことが出来る環境を整えます。

博士後期課程で学ぶ学生の研究テーマは、より特殊で具体的なものとなりますが、それに伴って、より広い研究領域の知識が必要不可欠となるからです。

指導教員のもとでの論文作成が、大学院生の研究生活の中心になるという点では、博士前期課程と博士後期課程の間に違いはありません。

学位授与方針　Diploma Policy

【博士前期課程】

国際日本学研究科博士前期課程は、日本の文化及び社会システムを国際的な視点に立ってよく理解するとともに、異文化や多様な社会システムに対する理解力をもち、さらに自らの意思を的確に表現できる、国際社会で広く活躍できる主体性を備えた実務者・教育者・研究者等を養成することを目指しています。

この目的を踏まえ、本研究科の定める修了要件を満たし、かつ、学業成績ならびに修士学位論文から、以下に示す資質や能力を備えたと認められる者に対して修士（国際日本学）の学位を授与します。

⑴ 人文科学と社会科学を相互浸透的に捉え、国際日本学として研究できる資質や能力。
⑵ 日本研究と国際研究を複合的に捉え、国際的視野で物事を考え、表現することができる資質や能力。
⑶ 現実社会や様々な学術分野で生じている新たな課題を発見し、その解決方法を探る資質や能力。
⑷ 課題を広く深く考察し、それについて独自な知見を提示する資質や能力。

【博士後期課程】

国際日本学研究科博士後期課程は、日本の文化及び社会システムを国際的な視点に立ってよく理解するとともに、異文化や多様な社会システムに対する理解をもち、さらに自らの意思を的確に表現することができる、国際社会で広く活躍できる主体性を備えた人材、とりわけ国際日本学の発展に寄与しうる柔軟で堅固な基礎を持つ研究者を養成することを目的としています。

この目的を踏まえ、本研究科の定める修了要件を満たし、学業成績及び博士学位論文審査に合格し、以下に示す資質や能力を備えたと認められる者に対し博士（国際日本学）の学位を授与します。

⑴ 人文科学と社会科学の諸分野を相互に関係付け、学際的に研究を展開できる資質や能力。
⑵ 国際的視野で物事を考え、国際的場面水準で表現することができる資質や能力。
⑶ 日本社会、国際社会や様々な学術分野で生じている新たな課題の深層を探究し、その課題解決に貢献する資質や能力。
⑷ 研究課題について本質を究明し、体系的な知見を持ち、独創的な成果を提示し、学術分野に貢献する資質や能力。

国際日本学研究科

院生からのメッセージ

博士前期課程 | Master's Program

羽吹 理美
HABUKI Satomi
国際日本学専攻
博士前期課程2年

幅広い興味と境遇を受け入れてくれる、懐の深さが魅力

他大の学部卒業後、10年ほど就業したのちに当専攻のポップカルチャー研究領域を社会人枠で受験しました。

ものづくりをする様々な方に仕事を通じて携わる中で、「サブカルチャー」に位置付けられてきたマンガやアニメ、ゲーム、特撮と、「ハイアート」とされる現代美術の相互関係性に興味を持ち、深掘りしてみたいと考えたことが受験のきっかけです。

他大受験かつ、学校という場から離れて久しくもあったため、入学前は少なからず学校生活に不安を抱いていました。しかし、国日研にはポップカルチャー研究領域ひとつをとっても、留学生をはじめとした多様な境遇の方が在籍しています。さらに、それぞれの研究の切り口もまた、実に「その人ならでは」。不安を感じるどころか日々計り知れないほどの刺激を受けており、遠回りながらも自分の関心が熟成した今、みなさんと教室を共にしていることは良い選択だったと実感しています。幅広い興味と境遇を受け入れてくれる、懐の深さも国日研の魅力です。「今だ！」というタイミングがあれば、門戸を叩いてみてはいかがでしょうか。

Q 師事している教員は？ **A 森川 嘉一郎 准教授**

森川ゼミでは、毎回研究へのきめ細やかな助言をいただけることに加えて、余裕があれば実際に作品を鑑賞する回もあります。さらに「学期ごとに各人が研究成果を一冊の本にまとめる（表紙・本文をともに自分で編集する）」という慣例も。創作物に関わる研究者として、「創作」そのものに多角的に向き合えるゼミです。

教員情報 P.178

博士前期課程 | Master's Program

田 知殷
JUN Jiwun
国際日本学専攻
博士前期課程2年

今できることを精一杯楽しむ！

研究はとても楽しいです。「楽しい」のプロセスには、多くの苦悩も含まれます。私は、困難に直面する度に、新しいことを経験できるチャンスだと積極的にそれらを楽しみながら取り組んでいます。

そう考えるようになったのは、コロナ禍での大学生活でした。コロナ禍で私たちはオンライン授業をはじめ多くの新しい経験をすることになりました。そこにはたくさんの悩みや迷いがありましたが、私はまさに、それについて研究を始めました。状況を「よく知る」ことで「何が問題か」が明確になり、それを「どう解決するのか」が見えてきました。そしてその研究成果を国際学会で発表し、参考になったと評価もいただきました。こうした経験を経て、私は、研究を通してもっと学びを深めたいと考え、大学院に進学しました。

研究という初めての経験をする中で、苦労したり悩んだりすることがたくさんありますが、その過程を精一杯楽しむことで、様々な視点や経験を得ることができました。この経験を活かして、今後も研究を続けていきたいと思います。

Q 師事している教員は？ **A 岸 磨貴子 准教授**

岸ゼミでは、アクションリサーチに基づく教育工学の研究をしています。

先輩や同期が気楽に相談し合うことで、お互いが当たり前のように助け合い、一緒に研究を進めています。そして、先生は、細かい指導をして下さることはもちろん、私たちが研究しやすい環境を一緒に作ってくださります。

教員情報 P.179

2022年度 修士論文テーマ

- ▶『新世紀エヴァンゲリオン』におけるコミュニケーション表象の変化 —アスカの目線分析を中心に—
- ▶中国大陸における動漫情報誌の成立と変遷
- ▶『週刊少年ジャンプ』におけるキャラクターの死の描写について
- ▶今敏アニメ作品におけるキャラクター〈内面〉の表象 —『パーフェクトブルー』『千年女優』を中心に—
- ▶日本におけるテーブルトーク・ロールプレイング・ゲームの導入と発展
- ▶SF・ロボットアニメにおけるモニターグラフィックス —デジタル制作以後の役割変化について—
- ▶「二次元男性アイドル」ゲームの比較研究 —『うた☆プリ』『アイナナ』『あんスタ』の戦略分析—
- ▶日本企業の海外M&A戦略の成否要因に関する考察 —資源ベース戦略論の観点から—
- ▶ワーク・ライフ・バランスにおける日本企業の雇用システムの現状と課題
- ▶被差別体験後の自己の捉え直しとアイデンティティに関する実証的研究 —「夏期学校」「学生会」に参加した青年を事例に—
- ▶インターネットは在日中国人留学生にどのような影響を与えているか —言語使用、人間関係とストレス対応に着目して—
- ▶社会的脆弱な立場の女性たちの情動性の変化とそのプロセス —ジブチ共和国における海外ボランティアの活動を事例として—
- ▶高等教育における学生のプロジェクト型学習の越境経験 —経験の再構築に着目して—
- ▶日本の移民統合政策に関する考察 —2018年改定出入国管理及び難民認定法の制定過程に着目して—
- ▶協働学習における生徒の異質性の認識と理解を促すカードゲーム型教材の開発と評価
- ▶新聞見出しの言語的特徴と社会的背景 —東京オリンピックに関する報道を事例に—
- ▶武術・武道における「小太刀」に関する研究 —日本剣道形への「小太刀の形」採用の背景を探る—
- ▶坂口安吾「桜の森の満開の下」論 —「文学のふるさと」のテーマの戦後—
- ▶インダストリアルデザインと自己イメージ —ドン・ノーマンの「三つのレベル」を手掛かりに—

修了生からのメッセージ

博士前期課程 Master's Program

コウ・ブンチン
KOH Boon Chin
国際日本学専攻
博士前期課程
2023年4月修了

狭い専門を持つ研究者の寛容さ

ある問題を突き詰めていくためには、自分の考えをしっかりと持つことが大事です。大学院では、自分を持つと同時に、他人のこともすんなり受け入れるのは素晴らしい研究者の姿勢だと学びました。そして、それは立派な人間になるのと同じことだと感じました。

僕はプロダクトにおける「機能」という概念について研究しましたが、「機能」に興味を持っている理由を説明する語学力と勇気をあまり持っていませんでした。しかし、指導教員はそんな僕を受け入れ、真摯に向き合い、優しいながら厳しく導いてくださいました。特に、留学生である僕に、日本語の表現を何回も変えながら批判や説明をしてくださったことに感謝しています。

知識や経験を積み重ねていくと、自分にしか見えない世界観が形成され、視野が狭まると思っていたのですが、先生方から「すごい人であればあるほど腰が低く頭が柔らかい」ということを学びました。大学院では先生と向き合う時間が長いので、皆さんも教授の知識だけでなく、生き方に目を向けて人生のヒントをたくさんもらってください。

Q 師事していた教員は？ **A 美濃部 仁 教授**

美濃部ゼミでは言葉の定義について深く考える機会が与えられます。普段何気なく使っている言葉は研究においてはっきりと定義づける必要があります。どういう背景でどういう意味を指しているのかということも常に問われます。先生のおかげで、研究だけでなく、日常生活でのコミュニケーションも改善できました。

教員情報 P.180

博士後期課程 Doctoral Program

山本 大貴
YAMAMOTO Hiroki
国際日本学専攻
博士後期課程
2022年3月修了

自分のロールモデルとなる恩師に出会えます！

私は、博士後期課程在学中に兵庫教育大学特命助教、つづいて信州大学助教の職を得て、仕事をしながら博士論文を執筆しました。20代で任期の無い大学教員となれた自分は、大変恵まれたキャリアを歩んでいると思います。これは、国日研の先生方のご指導があったからこそ実現できたものです。たとえば、ある授業で先生の熱心なご指導の下グループで研究を行い、その成果をまとめた論文が学会誌に掲載されました。この経験により、研究の進め方が体験的に理解でき、自律した研究者に一歩近づけました。さらに、学位論文以外にも研究業績を作れたことが就職につながりました。

また、国日研には、研究者としてはもちろん、教育者としても尊敬できる先生方がたくさんおられます。先生方から、優しく力強いお言葉や、効果的でやる気が高まるご指導を頂いた経験は、現在、自分の学生を指導する際にとても役立っています。国日研は比較的新しい大学院ですが、国日研出身の大学教員が既にたくさん誕生しています。皆さんも、国日研で研究者を目指しませんか？

Q 師事していた教員は？ **A 尾関 直子 教授**

尾関先生は英語教育の専門家で、学習指導要領の執筆に携わるなど、日本の英語教育発展に貢献されてきた方です。言葉に不思議な力があり、落ち込んでいる時も、先生に「大丈夫！」と言われると、本当に大丈夫な気がしてきます。また、院生の活躍を心から喜んで下さいます。一生頭が上がらない恩師です。

近年の博士学位授与

課程博士

学位の種類	論文タイトル	授与年度
博士(国際日本学)	English Language Textbook Analysis of Vocabulary and Learning Strategies in Japan and Taiwan: From Elementary School to Senior High School	2018年度
博士(国際日本学)	多文化環境で育まれる学びの研究 ―混住寮をフィールドとして―	2018年度
博士(国際日本学)	Wiener Musicals and their Developments: Glocalization History of Musicals between Vienna and Japan	2019年度
博士(国際日本学)	近代における和語の表記の変遷 ―意味の観点から―	2019年度
博士(国際日本学)	Classroom Conversation in Japanese Elementary School English Lessons: A Conversation Analytic Perspective	2020年度
博士(国際日本学)	海外中等教育段階の日本語教育カリキュラムフレームワークの構築 ―文化間移動の観点から―	2020年度
博士(国際日本学)	Developing Teaching Methodologies to Promote English Learners' Successful Motivated Vocabulary Learning 英語学習者の語彙学習行動改善に資する教育方法の開発	2021年度
博士(国際日本学)	Motivational Effects of Variations in Sequence of Cooperative Learning Activities 異なる協同学習の順番が動機づけにもたらす影響について	2021年度
博士(国際日本学)	新聞における文章の近代化 ―明治大正期『読売新聞』を中心に―	2022年度

国際日本学研究科

教員一覧

1 ポップカルチャー研究領域

※2023年4月1日時点のものです。今後変更や見直しを行う場合があります。

藤本 由香里 FUJIMOTO Yukari　教授　研究分野：少女マンガの発展過程・マンガの国際比較

【最終学歴】東京大学　【担当授業科目】ポップカルチャー演習／ポップカルチャー研究A・B　【研究テーマ】少女マンガに見る女性の意識の時代的変化／表現技法の発展史／マンガにおける性別越境表現／マンガの国際比較（流通条件や表現規制・著作権問題を含む）　【主な著書・論文】『私の居場所はどこにあるの？』（朝日文庫・2008年）／『快楽電流』（河出書房新社・1999年）／『少女まんが魂』（白泉社・2000年）／『愛情評論』（文藝春秋・2006年）／「少女マンガの源流としての高橋真琴」（『マンガ研究』vol.11・2007年）

宮本 大人 MIYAMOTO Hirohito　教授　研究分野：漫画史

【最終学歴】東京大学大学院　【担当授業科目】ポップカルチャー演習／ポップカルチャー研究D.I　【研究テーマ】昭和戦前・戦中期における子供向け物語漫画の表現・出版・流通・受容、およびそれに対する統制　【主な著書・論文】『マンガの居場所』（共著・NTT出版・1998年）／『誕生！「手塚治虫」　まんがの神様を育てたバック・グラウンド』（共著・朝日ソノラマ・1998年）／『はじめて学ぶ日本の絵本史Ⅰ』（共著・ミネルヴァ書房・2001年）／『はじめて学ぶ日本の絵本史Ⅱ』（共著・ミネルヴァ書房・2002年）

森川 嘉一郎 MORIKAWA Kaichiro　准教授　研究分野：マンガ・アニメ・ゲーム・おたく文化、趣味（taste）と都市空間

【最終学歴】早稲田大学大学院　【担当授業科目】ポップカルチャー演習／ポップカルチャー研究C　【研究テーマ】おたく文化史／マンガ・アニメ・ゲームのアーカイブ構築と展示運用／趣味（taste）と都市空間　【主な著書・論文】『趣都の誕生 萌える都市アキハバラ』（幻冬舎・2003年）／『おたく：人格＝空間＝都市　ヴェネチア・ビエンナーレ第9回国際建築展日本館カタログ』（編著・幻冬舎・2004年）／『MANGA↔TOKYO CONCEPT BOOK』（編著・国立新美術館・2018年）／『20世紀建築研究』（共編著・INAX出版・1998年）

2 日本社会・産業システム研究領域

※2024年度より、「企業・メディア・コンテンツ研究領域」から名称変更予定です。

小笠原 泰 OGASAWARA Yasushi　修士（国際経済学）修士（経営学）教授　研究分野：無形資本とデジタルテクノロジーと経営・社会

【最終学歴】シカゴ大学社会科学大学院・経営学大学院　【担当授業科目】コンテンツ・メディア研究（国際知財）　【研究テーマ】グローバル化とデジタルテクノロジーの進歩によるデータを含めて無形資産（知財）が企業経営および国家・社会に与える影響について　【主な著書・論文】『日本型イノベーションのすすめ』日本経済新聞社　2009年／『なんとなく、日本人』PHP新書　2006年／『日本的改革の探究』日本経済新聞社　2003年／『CNCネットワーク革命』東洋経済新報社　2002年

呉 在烜 OH Jewheon　博士（経済学）教授　研究分野：ものづくりシステムの国際比較

【最終学歴】東京大学大学院　【担当授業科目】日本社会システム演習／日本社会システム研究B・C　【研究テーマ】日本的ものづくりシステムの一般化／ものづくり組織能力の国際比較／日本企業のグローバル経営の比較分析　【主な著書・論文】『「日中韓」産業競争力構造の実証分析』（編著・創成社・2011年）／『中国における日・韓・台企業の経営比較』（共著・ミネルヴァ書房・2010年）／『ものづくり経営学：製造業を超える生産思想』（共著・光文社新書・2007年）／『ものづくりの国際経営戦略』（共著・有斐閣・2009年）

戸田 裕美子 TODA Yumiko　博士（商学）准教授　研究分野：日本的流通システム

【最終学歴】慶應義塾大学大学院商学研究科博士課程　【担当授業科目】日本社会システム演習／日本社会システム研究　A・D　【研究テーマ】日本的流通システムの歴史的分析　【主な著書・論文】戸田裕美子（2022）「良品計画：『わけあって、安い』から『感じ良いくらしと社会』の実現へ」『日系小売企業の国際展開』鳥羽達郎、川端庸子、佐々木保幸編著、中央経済社、pp. 59-87.／戸田裕美子（2022）「ナラティブの方法論的諸問題とマーケティング史研究への適用可能性」『マーケティング史研究』（マーケティング史学会）第1巻第2号、pp. 226-235.

田中 絵麻 TANAKA Ema　博士（学術）准教授　研究分野：メディア政策論・ICT政策論、コンテンツ産業論

【担当授業科目】コンテンツ・メディア演習／コンテンツ・メディア研究（コンテンツ産業）　【研究テーマ】AI時代における情報通信産業政策、コンテンツ産業の構造変化、メディア・リテラシーの要件　【主な著書・論文】田中絵麻（2020）「第2章　政権交代による国家AI戦略の継承と変化」『世界のAI戦略 各国が描く未来創造のビジョン』マルチメディア振興センター（編）、明石書店／田中絵麻（2020）「ゲーム研究ブックガイド　A Casual Revolution」、「ゲーム研究ブックガイド　遊びと人間」『デジタルゲーム研究入門』小林信重編、ミネルヴァ書房

小野 雅琴 ONO Makoto　博士（商学）専任講師　研究分野：広告論、消費者行動論、マーケティングリサーチ

【最終学歴】慶應義塾大学大学院　【担当授業科目】コンテンツ・メディア研究（広告）　【研究テーマ】広告等のマーケティング・コミュニケーション情報が消費者の製品評価に与える影響をテーマに、理論モデルを構築し実証する研究　【主な著書・論文】「口コミ発信者に対する妬みは口コミ受信者による推奨製品の忌避に帰着するか」『マーケティング・ジャーナル』38(2)（共著・2018年）／"Impacts of the FoSHU system on food evaluations in Japan," *Journal of Consumer Marketing*, 32(7)（共著・2015年）／『マーケティング・メトリクス：マーケティング成果の測定方法』（共訳・ピアソン桐原・2011年）／『マーケティング・コミュニケーション大辞典』（分担執筆・宣伝会議・2006年）

3 多文化共生・異文化間教育研究領域

※2023年4月1日時点のものです。今後変更や見直しを行う場合があります。

山脇 啓造
YAMAWAKI Keizo

教授

研究分野：移民政策／多文化共生論

【最終学歴】コロンビア大学国際関係・公共政策大学院　【担当授業科目】多文化共生・異文化間教育演習／多文化共生・異文化間教育研究（多文化共生特論）　【研究テーマ】国と地方自治体の外国人政策／多文化共生の地域づくりと学校づくり　【主な著書・論文】『新 多文化共生の学校づくり―横浜市の挑戦』（明石書店・2019年）／『自治体職員のためのインターカルチュラル・シティ入門』（欧州評議会・2021年）／『インターカルチュラル・シティー欧州・日本・韓国・豪州の実践から』（明石書店、2022年）

岸 磨貴子
KISHI Makiko

博士（情報学）
准教授

研究分野：教育工学／学習環境デザイン／国際教育協力

【最終学歴】関西大学大学院　【担当授業科目】多文化共生・異文化間教育演習／アクションリサーチ　【研究テーマ】ICTを活用した新しい教育　【主な著書・論文】『大学教育をデザインする―構成主義に基づいた教育実践―』（晃洋書房・2012年）／『学習環境としての分身型ロボットの活用：特別支援学校の生徒のパフォーマンスに着目して―』（Computer & Education, 2019）／『インターネットを活用した異文化間の協働を促す学習環境デザイン―実践共同体の組織化の視座から』（多文化関係学会 17号・2010年）

4 日本語学・日本語教育学研究領域

※2023年4月1日時点のものです。今後変更や見直しを行う場合があります。

田中 牧郎
TANAKA Makiro

博士（学術）
教授

研究分野：日本語学／日本語の歴史

【最終学歴】東京工業大学大学院　【担当授業科目】日本語学演習／日本語学研究A・B　【研究テーマ】語彙の歴史的な研究／日本語の言語問題に関する研究／コーパスに基づく日本語研究　【主な著書・論文】『言語の標準化を考える―日中英独仏「対照言語史」の試み―』（共著・大修館書店・2022年）／『コーパスによる日本語史研究 近代編』（共著・ひつじ書房・2021年）／『現代の語彙』（編著・朝倉書店・2019年）／『コーパスと国語教育』（編著・朝倉書店・2015年）／『近代書き言葉はこうしてできた』（岩波書店・2013年）

小森 和子
KOMORI Kazuko

博士（学術）
教授

研究分野：第二言語習得／日本語教育（語彙）／評価

【最終学歴】東京大学大学院　【担当授業科目】日本語教育学演習／日本語教育学研究C・D　【研究テーマ】第二言語としての日本語の語彙習得に及ぼす母語の影響／語彙知識の評価測定　【主な著書・論文】「日中同形語から見えること―似ているようで似ていない同形語の習得の難しさ―」『日本語学』36(11)（単著・明治書院・2017年）／「中国語話者の語彙習得とその指導」『日語教学研究』（単著・外語教学与研究出版社・2016年）／「日本語教育学入門」（共著・研究社・2015年）／「研究社日本語教育事典」（共編・共著・研究社・2012年）

国際日本学研究科

5 英語教育学研究領域

※2023年4月1日時点のものです。今後変更や見直しを行う場合があります。

大須賀 直子
OSUKA Naoko

Ph. D. (Linguistics)
教授

研究分野：中間言語語用論／英語教育／第2言語習得

【最終学歴】ランカスター大学大学院　【担当授業科目】英語教育学演習／応用言語学研究(語用論)　【研究テーマ】日本人学習者の語用論的能力についての研究　【主な著書・論文】「Effects of speech acts on learners' pragmatic development in a study abroad context」(『A pragmatic approach to English language teaching and production』Kazama Shobo, 2019年)／「Development of pragmatic routines by Japanese learners in a study abroad context」(『Current Issues in Intercultural Pragmatics』John Benjamins, 2017年)

廣森 友人
HIROMORI Tomohito

博士(国際広報メディア)
教授

研究分野：英語教育学／心理言語学／第二言語習得研究

【最終学歴】北海道大学大学院　【担当授業科目】英語教育学演習／英語教育学研究(心理言語学)　【研究テーマ】第二言語学習の心理学。第二言語(英語)を学ぶにはどんな学習方法が効果的なのか、やる気はどうすれば高まるのか。　【主な著書・論文】『英語教育論文執筆ガイドブック』(大修館書店, 2020年)／『「学ぶ・教える・考える」ための実践的英語科教育法』(大修館書店, 2018年)／『英語学習のメカニズム: 第二言語習得研究にもとづく効果的な勉強法』(大修館書店, 2015年)／『Language learning motivation in Japan』(Multilingual Matters, 2013年)

ルーゲン, ブライアン D.
RUGEN, Brian D.

Ph. D. (Education)
教授

研究分野：Applied Linguistics; TESOL

【最終学歴】ハワイ大学マノア校　【担当授業科目】応用言語学研究(Discourse Analysis)／英語教育学研究(カリキュラムデザイン)　【研究テーマ】Discourse and identity; English language teacher education; curriculum development in TESOL

マクロクリン, ディヴィッド A.
McLoughlin David A.

Ed. D.
准教授

研究分野：Motivation in Second Language Learning／Self-regulation of motivation

【最終学歴】エクセター大学大学院　【担当授業科目】応用言語学研究(第2言語習得理論A)　【研究テーマ】Motivation in Second Language Learning　【主な著書・論文】Interest Development and Self-Regulation of Motivation [Single author] In J. Mynard, M. Tamala, & W. Peeters (Eds.), *Supporting learners and educators in developing language learner autonomy* 63-76 (2020)／2. How Do Self-Directed Learners Keep Going? The Role of Interest in Sustained Learning. [Co-Author] PanSIG Journal 2017, 74-81(2018)

大矢 政徳
OYA Masanori

博士(学術)
教授

研究分野：言語学(コーパス言語学、依存文法)

【最終学歴】早稲田大学大学院　【担当授業科目】英語教育学演習／コーパス言語学　【研究テーマ】依存文法の枠組みに基づいた自然言語統語構造の定量的比較対照研究　【主な著書・論文】『依存文法概説』(開拓社, 2022年)／Differences of Mean Dependency Distances of English Essays Written by Learners of Different Proficiency Levels. *Glottometrics* 53 24-41

6 文化・思想研究領域

※2023年4月1日時点のものです。今後変更や見直しを行う場合があります。

長尾 進
NAGAO Susumu

教授

研究分野：身体教育学−武道論

【最終学歴】筑波大学大学院修士(体育学)　【担当授業科目】日本思想演習／日本思想研究A・B　【研究テーマ】武道思想史／武道技術史／武道の国際普及　【主な著書・論文】『剣道の文化誌』(単著・日本武道館・2022)／『絵図と写真に見る剣道文化史』(共著・全日本剣道連盟・2014年)／『改訂版剣道和英事典』(共著・全日本剣道連盟・2011年)／『剣道を知る事典』(共著・東京堂出版・2009年)／『武道文化の探求』(共著・不昧堂出版・2003年)／『剣道の歴史』(共著・全日本剣道連盟・2003年)

美濃部 仁
MINOBE Hitoshi

博士(文学)
教授

研究分野：哲学、とくに宗教哲学

【最終学歴】京都大学大学院　【担当授業科目】日本思想演習／日本思想研究C・D　【研究テーマ】西田とドイツ観念論における「絶対的なもの」を、とくに「自我」との関係において研究　【主な著書・論文】「西田における絶対無と個」(『西田哲学会年報』17号・2020年)／「実在性の拠り所としての良心と良心を超える立場―1800年前後のフィヒテ」(『理想』697号・2016年)／「「火は火を焼かない」―西谷啓治における「空」と「回互」」(『理想』689号・2012年)

溝辺 泰雄
MIZOBE Yasuo

博士(学術)
教授

研究分野：近現代アフリカ研究

【最終学歴】大阪外国語大学大学院　【担当授業科目】文化関係・文化変容研究(近代化と開発)　【研究テーマ】アフリカ独自の近代化・自立的発展論に関する歴史的研究　【主な著書・論文】[共著]石川博樹・小松かおり・藤本武編『食と農のアフリカ史―現代の基層に迫る』昭和堂、2016年(担当箇所：第12章「脱植民地化のなかの農業政策構想：独立期ガーナの政治指導者クワメ・ンクルマの開発政策から」291-309頁)。

小谷 瑛輔
KOTANI Eisuke

博士(文学)
准教授

研究分野：日本近現代文学

【最終学歴】東京大学大学院　【担当授業科目】文化関係・文化変容演習／文化関係・文化変容研究(日本近代文学)　【研究テーマ】芥川龍之介の文学／文学理論／文芸批評／近現代日本文化　【主な著書・論文】『小説とは何か？　芥川龍之介を読む』(ひつじ書房・2017年)／『テクスト分析入門』(共著・ひつじ書房・2016年)／『芥川龍之介ハンドブック』(共著・鼎書房・2015年)／芥川龍之介『侏儒の言葉』(注釈・文春文庫・2014年)

鵜戸 聡
UDO Satoshi

博士(学術)
准教授

研究分野：フランス語圏アラブ=ベルベル文学

【最終学歴】東京大学大学院　【担当授業科目】文化関係・文化変容演習／文化関係・文化変容研究(フランス語圏)A・B　【研究テーマ】アルジェリアを中心とするフランス語圏文学・アラブ文学／欧州におけるイスラームとユマニスム／移民船と航路　【主な著書・論文】『クリティカルワード　文学理論』(共著・フィルムアート社・2020年)／『国民国家と文学』(共著・作品社・2019年)／「小さな文学にとって〈世界文学〉は必要か？」『文学』第17巻・第5号(岩波書店・2016年)／『東欧の想像力』(共著・松籟社・2016年)

Q & A

Q1 英語の語学能力証明書は、何点くらいあれば合格となりますか？

A. 募集要項や研究科ホームページ上で、ご提出いただく語学能力証明書の合格スコアラインを公表しています。各自で事前に内容を確認してください。

Q2 語学能力証明書を出願期間内に提出できませんが大丈夫ですか？

A. TOEIC®やTOEFL®-iBT等の語学能力証明書は、有効期間に留意し、必ず各期入試の定められた出願締切日までに提出してください。出願期間後の提出は一切受け付けません。受験もできなくなりますので、十分ご注意のうえ、早めの準備をお願いします。

Q3 入学に当たって、どの程度の日本語能力を要求されますか？

A. 日本の大学・大学院を卒業・修了せず、外国の大学・大学院のみを卒業・修了（見込みを含む）した者は、国際交流基金と日本国際教育支援協会共催の「日本語能力試験」のN1レベルに合格するか、または、日本学生支援機構が実施する「日本留学試験」の「日本語」科目で、「読解」・「聴解・聴読解」の合計が270点以上、「記述」が30点以上を取得することが、入学の条件になります。いずれも入試実施年度ごとに、提出すべき「成績証明書」や「成績通知書」の有効期間が決まっていますので、十分ご注意のうえ、早めの準備をお願いします。有効期間外の書類は無効であり、入学が認められません。詳しくは募集要項をご確認ください。なお、日本の大学・大学院のいずれかを、日本語で授業を受けて、卒業・修了（見込みを含む）した者は免除します。但し、「日本語学、日本語教育学研究領域」を志願する者は、「日本語能力試験」・「日本留学試験」の入学の条件を満たすことが必須となります。

Q4 博士前期課程入試の専門科目試験の勉強方法を教えてください。

A. 本研究科ホームページの「入学試験向け参考文献等」で、事前に読んでおくことが望ましい参考文献等を紹介しています。ぜひ参照し、受験勉強に役立ててください。
http://www.meiji.ac.jp/ggjs/bibliography.html

Q5 希望指導教員との事前のコンタクトは必要ですか？

A. 国際日本学研究科として、希望指導教員との事前のコンタクトは義務づけておらず、必須ではありません。したがって、教員との事前連絡の仲介等は一切いたしません。ただし、教員によってはメールアドレスを公開しており、自身で事前連絡等が可能な場合もあります。

Q6 「研究計画書」の添削指導をお願いできますか？

A. 「研究計画書」は出願書類の一つであり、入学試験の公平性を確保する観点からも、「研究計画書」そのものの添削はできません。ご了承ください。ただし、皆さんが希望する研究テーマが、本研究科の教員の専門とマッチングするかといった相談などは可能です。国際日本学研究科が独自に開催する進学相談会などで、ぜひご相談ください。

Q7 博士前期課程入学後どんな授業を履修するのですか？ 時間割は？

A. 指導教員が担当する演習科目８単位と講義科目２単位、オムニバス講義の「国際日本学総合研究」２単位を含む、30単位以上の修得が必要です。また、当該年度の授業時間割やシラバスは、以下の研究科ホームページ上で公開しています。
https://www.meiji.ac.jp/ggjs/syllabus.html